

作成日 2018年6月5日

胃上部癌、食道胃接合部癌の手術を受けられる方へ 胃上部癌、食道胃接合部癌に対する術後 QOL 向上に寄与する 胃切除術式、再建法に関する多施設共同研究 への協力のお願い

【研究の概要】

胃切除後には、胃切除障害と呼ばれる後遺症がしばしば現れて、患者さんの QOL(生活の質)に支障をきたすことが問題となります。特に胃上部、食道胃接合部の癌の術後にはこの後遺症が強く現れることが知られています。この為より良好な QOL が期待できるさまざまな手術法の工夫が行われていますが、どの手術法が術後の QOL 向上に役立つかについて、まだ明らかにされていません。そこで「胃癌術後評価を考える」ワーキンググループが策定した質問票を用いて、各胃切除術式が術後患者さんの日常生活に及ぼす影響の大きさや特徴の違いを調べ、癌の占拠部分や進行度に応じて術後の QOL 向上に寄与する術式の選択を可能としたい。又、集積したデータと各施設で行われている術式とを比較することで、各施設が行っている独自の工夫の有用性を評価し、よりすぐれた術式の同定・普及やさらなる術式改良に役立てたいと考えています。

【研究の対象】

○2018年7月1日から2019年12月31日の間に、胃上部癌、食道胃接合部癌に対する胃切除術・再建術を受けられた方

【研究に用いる試料】

「胃切除術式と胃術後障害に関する実態質問票:45項目」(胃癌術後評価を考えるワーキンググループ策定)

【外部への情報提供】

術式登録システムに、個人を特定する事が出来るような情報を登録することはありません。また、質問票は患者さんの自主的郵送に委ねる為、診療機関、主治医等が目にする事はありません。

【研究組織】

東京慈恵会医科大学附属第三病院の臨床検査医学教授を代表として、全国約90の施設で各病院の倫理委員会の承認が得られた施設が共同で行います。

この研究は、当院で通常行なわれている手術治療後の QOL を集計するもので、研究に協力することによって皆様に特別な危険や負担をおかけするものではありません。なお、今回の研究に協力しないことによって、当院での診断・治療において不利益を被ることはいっさいありません。

【問い合わせ先】

社会医療法人景岳会 南大阪病院 内視鏡外科 竹村 雅至
〒559-0012 大阪市住之江区東加賀屋1丁目18-18
Tel: 06-6685-0221(代)